



ビジョナリーホールディングス<9263>、国内ファンドの日本企業成長投資のTOBを受け入れて株式を非公開化



ビジョナリーホールディングスは6日、国内投資ファンドの日本企業成長投資（東京都千代田区）のTOB（株式公開買い付け）を受け入れて株式を非公開化すると発表した。眼鏡店「メガネスーパー」を開設するビジョナリーをめぐっては前社長の星崎尚彦氏による仕入先・顧客との不正取引問題などで信頼回復が急務になっており、非公開化したうえで外部パートナーの傘下でガバナンス体制を再構築する。ビジョナリーはTOBに賛同している。

買付主体は日本企業成長投資が設立したHorus（東京都千代田区）。ビジョナリー株の買付価格は1株につき200円。TOB公表前日の終値109円に83.49%のプレミアムを加えた。買付予定数は3725万5958株。買付予定数の下限は所有割合66.67%にあたる2483万7300株。ビジョナリーの筆頭株主で32.33%の株式を持つ医療IT大手のエムスリーはTOBに応募することで合意している。買付代金は最大74億5119万円。

買付期間は10月10日～11月21日。決済の開始日は11月29日。公開買付代理人は野村証券。

現筆頭株主のエムスリーはTOB成立後、ビジョナリーに再出資して引き続き経営に関与する予定。出資比率は日本企業成長投資75%、エムスリー25%が想定されている。

ビジョナリーは1976年に埼玉県大宮市（現さいたま市）にメガネスーパーとして設立。2004年に株式を店頭登録。2017年に持ち株会社制に移行し、現社名に変更。同年、東証ジャスダック市場に上場（2022年4月に東証スタンダード市場に移行）。2020年2月、エムスリーを引受先とする第三者割当増資を行い、同社が筆頭株主にとなった。